



## 修路功勞者の表彰に就て

### 道路改良會審査部

道路交通の效用を擧ぐるが爲には、常に道路を開設した當時の状態に維持する事を要し、交通ある度毎に生ずる道路の損壞を其の度毎に修繕して、所謂千丈隄を以て蟻蟻之穴の潰の恨を防止するの必要がある、此爲に設けられたのが修

路工夫の制度であるが、由來道路維持修繕の事柄は、道路の新築改築や橋梁の架設等の事業とは違つて往々にして輕視閑却され易く、爲に之に従事する修路工夫が、風雨寒暑の苦を凌いで爲す其の動作も往々にして輕視され、所謂隱

れた所業として社會より閑却視さるゝの嫌あるのは寔に痛嘆に堪へないのである、併しながら翻て其の動作の效果に稽へるときは、道路新築改築の効果を左右するの働であつて、路政上最も緊要事に屬するのである、従つて修路工夫の職責は新築改築事業の夫れ以上に重且つ大なるものと言はねばならぬ、本會は茲に着眼し、聊もすれば忘れられんとする隠れたる修路功勞者の表彰を志し、地方長官に依頼して全國に於ける修路工夫中其の功績最も著大なものを選

擇し、左記諸氏を表彰し銀盃一個を贈呈した、固より其の勞を稿ふに足りないであらうが、本會の意の存するところを採つて將來益其の業に奮勵せむことを祈つて已まない。

因に修路工夫に關する現制度は、社會政策上の見地からして大に攻究すべき幾多の問題を包藏してゐる、是等のことに關しては幹事田中好をして目下鋭意調査研究せしめつゝあるから不日成案を得て發表せしむるであらうが、修路工夫の制度に關し世の識者が所持さるゝ意見あらば、同幹事に通知せられむことを切望する。

功勞者各位の功績は何れ來月誌上に更に發表するであらうが、今其の氏名のみを録する。

北海	岩	青	宮	秋	山	福	茨	栃	群	埼	千	東	神
濱	手	森	城	田	形	島	城	木	馬	玉	葉	京	奈
山	高	木	菅	古	荒	三	稻	田	多	田	三	松	白
本	橋	下	原	谷	井	浦	葉	代	田	口	田	澤	井
榮	寅	吉	菊	長	善	清	留	鐵	儀	新	亥	勸	政
作	吉	三	太	助	兵	吉	吉	吉	八	五	之	三	吉
	作	郎	助	助	衛	吉	吉	吉	郎	郎	助	郎	吉
岩	遠	石	矢	樋	山	山	影	熊	松	小	大	島	土
淵	藤	田	倉	口	口	口	山	倉	井	森	木	田	屋
作	圭	福	定	喜	喜	太	佐	小	茂	谷	勝	惣	爲
太郎	助	松	吉	助	郎	郎	平	一	八	敬	治	次	藏
								郎		三		郎	

和歌山	奈良	兵庫	大阪	京都	滋賀	三重	愛知	靜岡	岐阜	長野	山梨	福島	石川	富山	新潟
形部由松	中西源一郎	小畑善兵衛	西村巳之助	西垣繁藏	古池龜次郎	福永増五郎	橋本小市	渡邊吉藏	片倉久三	松村安太郎	原田久太郎	笹川淺治郎	伊藤柳太郎	高田吉之丞	松原作藏
鏝龜次郎	福岡嘉藏	谷口音吉	繁葉仙太郎	嵯峨根由藏	木本兼吉	佐野甚之助	出原景一	金子清一郎	中畑松之助	大澤龜治	渡邊國仲	田中源作	出村竹次郎	小林増藏	小林増藏
沖繩	鹿兒島	宮崎	大分	熊本	長崎	佐賀	福岡	高知	愛媛	香川	徳島	山口	廣島	岡山	島根
安次嶺主理	湊鐵熊	園田源次郎	津山伊次郎	坂本茂	中山卯之吉	友貞榮吉	牛島梅吉	萬橋彌之助	渡部幸五郎	千葉駒吉	林鐵五郎	藤田逸之進	岡野光藏	中野仲次	井上辨太郎
金城松	田中林左衛門	矢津田龜彦	松本藏吉	溝上鶴松	深見彌三	青木又次郎	保坂松太郎	西村寅太郎	花山富次	合田保太郎	大串民五郎	藤井藤吉	永井友四郎	西彌平	岡本留市
															高松豐重